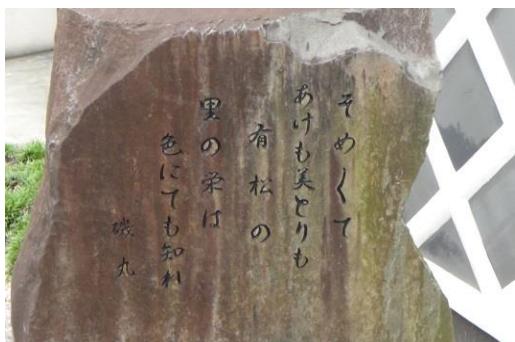


II. 『そめそめて・・・』 (糟谷 磯丸 唐子車山車庫横)



そめそめて
あけも美とりも
有松の
里の栄は
色にても知れ

糟谷 磯丸

①作者 糜谷 磯丸 (かすや いそまる、1764~1848)

渥美半島の先端伊良湖村の生まれ。名を新之丞、諱を貞良。生涯、旅をしながら数万首の歌を作ったといわれている。

〈磯丸翁和歌由来の一部〉

我在所は伊勢よりおおよそ海上七八里をへだつ伊良湖崎と申処で、糟谷新之丞と申し、網引を世渡りとなす。老いたる母が病に伏しけるを嘆き、伊良湖大明神様へ祈願をかけ、三とせの間毎日水あびして、大明神様へ日参の折々、御神前の和歌を聞き面白き物と是をよみ習ひ度思い、長く短く言捨て三十一文字につづり覚へ、よしみ歌人に頼み書てもらい、月花の文字其外次第々々に見馴れ覚へて、三四ヶ年前よりおのづから歌書程の仮名文字を覚へ、見苦しながら今は自筆し記し申候。郡御奉行様に召され磯丸と御附下され候。

② 設置のいきさつ

平成17年5月 中町年行司および唐子車山車庫竣工記念として、有松天満社文嶺講が近藤好彦氏のアドバイスをうけ設置。